

令和3年度

教育委員会点検・評価報告書

令和4年12月

柳津町教育委員会

はじめに

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出するとともに公表することが義務付けられました。柳津町教育委員会は、平成20年度から、法改正の趣旨に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様に説明責任を果たすため、「柳津町教育委員会事務管理及び執行状況の点検・評価実施要綱」を定め、要綱に基づき教育委員会の点検・評価を実施し、その結果に関する報告書を議会に提出し、柳津町のホームページ等を通して公表しております。

さて、令和3年度も新型コロナウイルス感染症が一向に終息する気配がなく、教育現場では日々、感染対策を講じつつ、関係する皆さまの工夫、創意で各種事業が進められたことに感謝申し上げます。また、学校、文化やスポーツ活動などに徐々に皆さんの笑顔、歓声が戻ってきたことは、この上ない喜びを感じるところであります。

依然として先の見通せない中ではありますが、学校・家庭・地域の連携を深め合い、第6次柳津町振興計画に掲げる将来像「みらい創生。ひと・ゆめ・れきしをつなぐまち」、そして、教育政策の基本目標である「豊かな心を育むまちづくり」の実現に向け、5つの重点施策を積極的に推進して参ります。

本報告書は、こうした取り組みを踏まえ、それぞれの事務事業について点検・評価を実施し、その結果を整理したものであります。点検・評価にあたりましては、教育委員会の活動状況及び教育委員会重点施策の二つの面に絞り、また、点検・評価に関する有識者は、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、小中学校保護者及び教育関係者等の学識経験を有する方にお願ひし、教育委員会が行った点検・評価の内容についてのご意見とご指導をいただきました。

令和4年度には、小・中連携教育のなお一層の推進を図るべく、3校に一つの学校運営協議会を設立し、各校がコミュニティスクールとして始動したところです。本協議会は、学識経験者や多方面から委員に就いていただき、毎回、有意義なご意見等をいただいております。今後の学校経営に反映し、着実に進捗できるよう邁進したいと考えております。

最後に、町民の皆さまから忌憚のないご意見をいただきながら、教育行政の一層の充実と発展に役立てていきたいと考えておりますので、今後とも町民の皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。

令和4年12月

柳津町教育委員会

目 次

はじめに

I	教育委員会の活動状況	-----	1
II	教育委員会重点施策点検・評価一覧表	-----	5
III	各重点施策の点検・評価	-----	8
	①学校教育の充実	-----	9
	②生涯学習の推進	-----	35
	③生涯スポーツとレクリエーションの推進	-----	37
	④地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興	-----	40
IV	点検・評価に関する有識者の意見	-----	44
	①点検・評価に関する有識者名簿	-----	45
	②点検・評価に関する有識者の意見	-----	46
	《 資 料 》		
	・柳津町教育委員会の点検・評価の概要	-----	49
	・柳津町教育委員会事務管理及び執行状況の 点検評価実施要綱	-----	50

I 教育委員会の活動状況

1 教育委員会委員

職名	氏名	備考
教育長	神田 順一	就任：平成31年4月1日から 退任：令和4年9月30日まで
職務代理者	鈴木 礼	就任：平成28年10月1日から 任期：令和6年9月30日まで
委員	鈴木 亘	就任：平成28年10月1日から 任期：令和5年9月30日まで
委員	二瓶 伸博	就任：平成29年11月4日から 任期：令和3年9月30日まで (任期満了により退任)
委員	天野 百合子	就任：平成30年4月1日から 任期：令和4年9月30日まで
委員	上田 精一	就任：令和3年10月1日から (新任) 任期：令和7年9月30日まで

2 教育委員会の開催状況

- 定例会 12回
- 臨時会 1回

3 教育委員会の審議・協議の内容

【定例会】

月日	回数	主な審議(協議)内容
4/28	1	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長業務報告について ・教育重点施策について ・新型コロナウイルス感染症対策等について
5/28	2	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長業務報告にさいて ・令和3年6月議会定例会に提案する補正予算等について ・新型コロナウイルス感染症対策等について ・各学校の学校生活に関する規則等について
6/28	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長業務報告について ・令和3年6月議会定例会の報告について ・新型コロナウイルス感染症対策等について ・令和3年度柳津町の学校教育について
7/28	4	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長業務報告について ・町文化財活用検討会について報告について ・令和4年度小中学校教科用図書の採択について
8/26	5	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長業務報告について ・令和3年度9月議会定例会に提案する補正予算等について

		<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）設置準備について ・新型コロナウイルス感染症対策等について
9/28	6	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長業務報告について ・令和3年9月議会定例会の報告について ・町文化財活用検討会について報告について ・教育長職務代理者の指名について ・令和2年度教育委員会点検・評価について
10/27	7	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長業務報告について ・町文化財活用検討会について報告について ・町学校運営協議会規則について ・町立学校に勤務する教育職員が勤務を行う時間の上限に関する規則について
11/25	8	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長業務報告について ・令和3年12月議会定例会に提案する補正予算について ・町教員宿舍整備計画について ・旧柳津町学校給食センター跡地の利活用について
12/27	9	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長業務報告について ・令和3年12月議会定例会の報告について ・町文化財活用検討会について報告 ・令和3年度末教職員人事について
1/28	10	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長業務報告について ・令和4年度当初予算の主な要求について ・令和3年度末教職員人事について ・B&G艇庫活用検討について
2/28	11	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長業務報告について ・新型コロナウイルス感染拡大等について ・令和3年度末教職員人事について ・令和4年3月議会定例会に提案する令和3年度補正予算及び令和4年度当初予算について ・町学校運営協議会の委員構成及び協議会名称について
3/28	12	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長業務報告について ・令和4年3月議会定例会の報告について ・高校入試結果等の報告について

【臨時会】

月 日	回数	主 な 審 議（ 協 議 ） 内 容
3/4	1	令和4年度柳津町立学校教職員の人事について

4 教育委員会委員の主な活動（学校行事・研修、生涯学習関係行事等）

月	日	主 な 活 動	委員参加人数
4	2	新任教職員歓迎披露式	4人
	6	小・中学校入学式	4人
5	7	町教育研究会総会	4人
	12	町PTA連絡協議会総会	書面对応
	15	各小学校運動会	招待なし
	28	町総合教育会議	4人
	28	県市町村教育委員会連絡協議会両沼支会春季総会	書面对応
7	1	社会を明るくする運動駅前広報	中止
	15 ～ 16	東北六県市町村教育委員会連合会総会及び 教育長・教育委員研修会(青森市)	総会書面对応 研修会中止
	21	町小学校水泳記録会	中止
	27	県市町村教育委員会連絡協議会教育長教育委員研修	オンライン開催
9	29	町小学校陸上記録会	招待なし
10	1	教育委員任命書交付式	1人
	10	成人式	4人
	16	会柳学中文化祭（柳輝祭）	招待なし
	23	柳津小秋まつり・西山小きらきらフェスタ	招待なし
	27	県市町村教育委員会連絡協議会両沼支会評議員会 県市町村教育委員会連絡協議会両沼支会秋季総会	1人 4人
11	3	町自治功労者表彰式	招待なし
	21	ふくしま駅伝競走大会	応援なし
	25	町PTA連絡協議会「教育を語る会」講演会	4人
3	11	中学校卒業証書授与式	4人
	23	小学校修了・卒業証書授与式、中学校修了式	4人
	28	町教職員離任式	4人

5 教育委員会活動の主な事業の情報発信

- ◆ 町広報誌「広報やないづ」に教育委員会主催行事等を掲載
- ◆ 「やないづ教育ねっと」に各種情報を掲載

Ⅱ 教育委員会重点施策 点検・評価一覧表

II 柳津町教育委員会重点施策点検・評価一覧表

重点施策	基本事業	主な事務事業	達成度	事務担当
学校教育の充実	1 確かな学力の向上 (かしこい子どもに)	各種要請訪問の実施と指導助言 柳津町学力向上推進事業(町教研への委託) 柳津町教育研究会への支援 全国標準学力検査、全国学力学習状況調査の実施	B	学校教育係
	2 豊かな心の育成 (意欲をもってやり抜く子どもに)	道徳教育・特別活動の指導計画作成指導 体験的活動・ボランティア活動への支援 読書活動の推進のための学校図書館の条件整備 Q-Uテスト(2回)の実施による学級づくり支援 いじめ、問題行動等へ早期対応支援	B	
	3 健やかな身体の育成 (たくましい子どもに)	学校保健体育、食育等の計画作成指導 部活動指導への支援 給食センター備品整備事業 学校給食運営協議会の開催 全国体力テストの実施	B	
	4 特別支援教育の充実	教育支援委員会の開催 特別支援学級の整備 特別支援教育支援員の配置	B	
	5 小・中連携教育の推進	小・中連携教育の推進(町教研への委託) 小・小、小・中連携教育推進への支援	B	
	6 情報教育の充実	学校教育用パソコン等ICT整備事業 メディアコントロール運動等の推進支援 ICT支援員の配置	A	
	7 英語教育・国際理解教育の 充実	小学校英語教育の推進(町教研への委託) 外国青年(英語指導助手)招致事業	B	
	8 教育環境・条件の整備 充実	学校施設等改修整備事業 教材教具整備事業 就学援助事業 児童生徒通学費補助事業 教員住宅管理事業 スクールバス運行事業 特別支援教員等の配置 複式指導解消支援教員の配置	A	
生涯学習の推進	1 興味・関心を抱く学習機会 の創出と町民同士の交流 促進	シニアサークル「福寿学園」「養寿学園」の開催 成人学級「悠友倶楽部」の開催 料理教室の開催 その他の教室	B	生涯 学習係
	2 社会教育施設の設備等 の充実	活性化施設「ふれあい館」管理運営事業 図書館整備事業 地区集会所施設の整備補助事業	A	

達成度 A=十分に達成 B=ほぼ達成 C=やや不十分 D=不十分

II 柳津町教育委員会重点施策点検・評価一覧表

重点施策	基本事業	主な事務事業	達成度	事務担当
生涯スポーツとレクリエーションの推進	1 楽しさを感じるスポーツ事業の提供	各種町民スポーツ大会等の開催 県総体県民スポーツ大会への参加 ふくしま駅伝競走大会への参加 市町村対抗軟式野球大会・ソフトボール大会への参加 町体育協会運営事業 スポーツ推進委員会の開催と活動	B	生涯学習係
	2 スポーツ施設及び設備の整備充実	運動公園施設整備事業	B	
	3 指導者の確保とスポーツ団体への支援	町体育協会及びスポーツ推進委員会の活動支援 赤ベクトータルスポーツの活動支援	C	
地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興	1 文化財の適切な保存・管理	町指定文化財管理事業 縄文館活用事業 町誌編纂事業 軽井沢銀山煙突保存事業 文化財火災防衛訓練の実施	B	生涯学習係
	2 有識者、関係機関との連携	柳津町文化財保護審議会の開催 有識者や関係機関との協力	B	
	3 斎藤清の魅力を発信し地域に開かれた美術館	斎藤清画伯作品による企画展事業 斎藤清美術館施設管理運営事業 斎藤清版画作品等購入事業 アトリエ館施設管理運営事業	B	美術館係

達成度 A=十分に達成 B=ほぼ達成 C=やや不十分 D=不十分

Ⅲ 各重点施策の点検・評価

【学校教育の充実】

基本事業	1 確かな学力の向上(かしこい子どもに)	
取組の状況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)「学力向上グランドデザイン」による学習指導 (2)柳津町学力向上推進事業(町教研への委託) (3)全国標準学力検査、全国学力学習状況調査の実施	
成果と評価	柳津小 B 西山小 B 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次年度への課題	町全体としては、 ①「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を積み重ねて、知識や技能の定着とともに思考力・判断力・表現力の向上を目指すよう指導助言する。 ②全国標準学力検査の現状値を全国平均に近づけることができるように、個に応じた補完指導を丁寧に行うよう参観等で確認する。	

基本事業	2 豊かな心の育成(意欲をもってやり抜く子どもに)	
取組の状況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)道徳教育・特別活動における指導 (2)体験的活動、ボランティア活動の重視 (3)学校図書を整備と読書活動の推進(図書司書2名配置) (4)いじめ、問題行動の早期発見、早期対応	
成果と評価	柳津小 B 西山小 B 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次年度への課題	町全体としては、 ①教科化された道徳の授業及び評価のあり方に関する研修を学校の計画に沿って支援する。 ②警察等関係機関へ講師の派遣依頼を行い、各校のSNSに関する指導を充実させる。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	3 健やかな身体の育成(たくましい子どもに)	
取組の状況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)学校保健体育、部活動の指導 (2)食育計画の作成と指導 (3)全国体力テストの実施 教育委員会において次の指導や活動・事業を実施した。 学校給食運営協議会の書面開催(1回) 子育て支援の一環で、児童生徒全員の給食費全額支援	
成果と評価	柳津小 B 西山小 B 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次年度への課題	町全体としては、 ①新体力テストの結果を踏まえて、授業や日課表に位置付けた活動の充実のため、小学校体育アドバイザー等の活用を助言する。 ②栄養教諭による食育を授業や給食時に実施する。 ③保護者の理解のもと、中学校の部活動に限られた条件での充実等について指導助言する。	

基本事業	4 特別支援教育の充実	
取組の状況	特別支援学級の整備及び取組の状況等 ・柳津小学校 2学級(4名) ・西山小学校 設置なし ・会津柳津学園中学校 1学級(2名) 教育支援員として、柳津小に2名及び柳学中に1名配置	
成果と評価	柳津小 B 西山小 B 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次年度への課題	町全体としては、 ①保育所等と連携して、個別の支援が必要な可能性がある子どもの早期確認に努める。 ②特別支援学級と通常学級との連携の在り方等について指導助言する。また、必要に応じて特別支援学校と連絡調整を図る。	

達成度 A~十分達成 B~ほぼ達成 C~やや不十分 D~不十分

基本事業	5 小・中連携教育の推進	
取組の状況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)小中学校間連携教育の推進	
成果と評価	柳津小 B 西山小 B 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次年度への課題	町全体としては、 ①学校行事のみでなく、授業実践に関する小小、小中の連携を具体化するように学校教育アドバイザーを中心に指導助言にあたる。 ②保小連携のための職員・教員の交流の機会(相互訪問等)を積極的に設ける。	

基本事業	6 情報教育の充実	
取組の状況	教育委員会において次の事業を実施した。 (1)ICT機器整備事業(タブレット等) (2)メディアコントロール運動等の推進支援 (3)ICT支援員の配置	
成果と評価	柳津小 A 西山小 A 柳学中 B	全体としての達成度
		A
次年度への課題	町全体としては、 ①学習用タブレットについては、有害情報へのアクセスが出来ぬようフィルタリング設定をしているが、引き続き適切な設定を進める。 ②スマホ等のデジタル機器に依存し、SNS上でのトラブルが全国で発生、また、視力低下の健康への影響も見受けられるので、適切にメディアコントロールするよう児童生徒はもとより、家庭に対しても理解、協力をいただく。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	7 英語教育・国際理解教育の充実	
取組の状況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)小学校英語教育の推進(町教研への委託) (2)外国青年(英語指導助手)招致事業	
成果と評価	柳津小 B 西山小 B 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次年度への課題	町全体としては、 ①小・中相互の授業参観や研修の実施を支援する。 ②英語指導助手を活用し、発音や聞き取りなどの上達、また、海外の生活、文化などの紹介を通じた国際理解の充実を図る。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	1 確かな学力の向上	
取組の状況	<p>(1) 「確かな学力グランドデザイン」による学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 町赤ベコプランを周知し、自校のプランの共通実践 ○ 職員全員でのわかる・できる授業の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上につながるICT機器の活用（学びの連続性・児童同士の学び合い） ・学習内容が分かるめあての提示 ・活用力育成のための練習・補充の時間確保 ・複数教員や支援員によるT、T指導、課題別、習熟度別学習 ・单元ごとの確実な「わかった・できた」子どもの把握（单元テスト、活用力育成シート、全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査） ○ 読書量を増やす <ul style="list-style-type: none"> ・必読書の設定、メディアコントロール週間での読書の推奨 ・読書タイムの設定・図書キャンペーンの実施 ・図書教育担当・図書館司書・読み聞かせによる読書意欲の高揚 ○ 学習の環境作り <ul style="list-style-type: none"> ・「赤ベコプラン」の掲示、系統性を意識した指導 ・「学習コーナー」の設置と学習への活用 ○ 家庭学習の習慣化 <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」の活用と保護者との連携 ・メディアコントロール週間の設定と自主学習の習慣化 <p>(2) 柳津町学力向上推進事業（町教研への委託）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「主体的・対話的に学ぶ児童の育成」を目指した校内研修の充実 ○ ICT機器の効果的な活用 <p>(3) 全国標準学力検査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国・県学力調査を利用した補充指導 ○ 活用力育成シート・フォローアップシートの活用 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学力向上グランドデザイン」による学習指導 学習内容がわかるめあての提示、活用力育成のための練習・補充の時間確保、児童の学習意欲を高めるICTの効果的な活用を意識した。 ○ 教務や支援員によるT、T指導により、つまづき克服のための個別指導に重点をおいて指導した。 ○ 家庭学習の手引きやICTを活用し、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図った。 ○ 全児童に配付されたICT機器を効果的に活用して、児童同士の学び合いと一人一人の児童の深い学びを実現するように努めてきた。 ○ 全国標準学力検査を利用して、本校における課題を教員全体で共有し、補充指導に生かすことができた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業スタンダード」や「赤ベコプラン」を活用して、日々の授業をさらに充実させるとともにT・Tによる指導や支援員の活用等により個に応じたきめ細やかな指導を一層充実させ学力の向上を図る。アンダーアチーバーの減少と上位児のさらなる向上に力を入れる。 ○ 効果的なICT機器の活用場面を考え、児童の主体的・対話的で深い学びの授業実践とリテラシーの向上に取り組む。 ○ 定着確認シートやフォローアップシート、活用力育成シートを各学期に効果的に活用し、基礎学力の確かな定着と活用力の育成に努める。 ○ 学年に応じてICTを適宜活用したり、家庭学習や自主学習の取り組み方について家庭との連携を密にしたりしながら、家庭学習の充実を図る。 ○ 全国学力調査・ふくしま学力調査への対応、春休み中の課題、学校としての課題解決策の策定等を組織的に行う。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	2 豊かな心の育成	
取組の状況	<p>(1) 道徳教育、特別活動における指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の授業の充実と日々の道徳的実践力の向上 ○ 道徳教育指導内容の日常的な活用 ○ 自主的・自律的な態度並びに互いに賞賛し合える態度の育成 ○ 自己理解の推進と自己存在感や自己肯定感の向上 ○ 「特別の教科道徳」の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観での実施 ・別葉の作成 ・評価観点の確認 <p>(2) 体験的活動、ボランティア活動の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉施設との交流活動 ○ 米づくり体験活動(4・5年) ※地主さん、JA、農青連の協力 ○ 森林環境学習(全学年) ※町農林振興班の協力 ○ 町小学校合同宿泊学習(5年)、合同修学旅行(6年) ○ 各教科、総合的な学習、生活科における体験的活動(各学年) <ul style="list-style-type: none"> ・町の観光、歴史、町探検、見学、調査等 ・全校遠足における柳津町のオリエンテーリング(柳津クエスト) ・西山小との交流学習の充実(ICTを活用したオンライン交流) ○ 学校支援コーディネーターとの連携 <p>(3) 学校図書の整備と読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通じた読書冊数の向上・図書室来室児童数の向上 ○ 各学年の読み聞かせの実施(町読み聞かせボランティアの活用) ○ 図書館教育担当教員と図書館司書の連携による読書意欲の喚起 <ul style="list-style-type: none"> ・読書キャンペーンの実施 ○ 各学年の必読書の設定 <p>(4) いじめ、問題行動の早期発見、早期対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育相談(児童年3回、保護者年1回)といじめアンケートの実施 ○ QUを活用した実態把握と課題に基づく指導・人間関係の改善 ○ SCとの連携 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍の中でも、工夫した体験活動や各種行事の実施により、児童に達成感や充実感をもたせることができた。 ○ 柳小秋まつりでは、各学年の学習成果を伝えることができた。 ○ 福祉施設との交流では、高齢者疑似体験を通して福祉の大切さ、ふれあいの大切さ等を実感することができた。 ○ 読書に関する様々なキャンペーンを実施することで、図書室来室数と読書冊数を向上に努めた。 ○ いじめ問題や児童の様々な問題について、関係する教職員と家庭とが連携を図り、早期発見・早期対応による解決に向けた組織的な取り組みを実施することができた。 ○ QUを活用し、児童の人間関係や課題を把握することができた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍における工夫した行事の実践と地域素材・人材を活用した児童の体験活動を充実させる。 ○ 図書館司書と担任が協力し、読書意欲を高める様々な取り組みの実践と必読書の読書状況の把握に努める。 ○ メディアコントロール等への取り組みを通し、児童の自己マネジメント力を高める指導を継続する。 ○ 学級力の向上、児童一人ひとりを認め・誉め・励ます声かけと児童と教師の対話を組織的に行うことで積極的な生徒指導を充実させ、自己肯定感・非認知能力の向上を図る。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	3 健やかな身体の育成	
取組の状況	<p>(1) 学校保健体育、部活動の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 運動への意欲や技能を高める授業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・「運動身体作りプログラム」の実践 ・業間のマラソンや縄跳びの取り組み ○ 運動会や校内小学校水泳記録会、マラソン記録会へ向けての教科体育の充実 ○ 外部人材の活用（外部指導員、中学校教諭、特別非常勤講師による指導） ○ う歯の治療率を高めるための保護者との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・歯磨きカレンダー、カラーテスターの実践 ・保護者への啓発 ○ 肥満傾向児童への個別支援と外部機関との連携（個別指導・体組成検査） ○ 町小・中学校合同による学校保健委員会の実施 <p>(2) 食育計画の作成と指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「朝食摂取率100%週間」運動の実施（6月、11月） ○ 「全国学校給食週間」での取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・「給食の歴史」の紹介、特別献立の実施など ○ 「自分で作るお弁当の日」（年2回）の実施 <p>(3) 全国体カテストの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新体カテストの結果分析と体力向上推進計画を踏まえた指導の充実 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「運動身体作りプログラム」を授業に取り入れて実践できた。 ○ 運動会、校内水泳記録会、マラソン記録会では、児童が自己のめあてを持って意欲的に練習に取り組み、成果を上げることができた。 ○ 特別非常勤講師や赤べこトータルスポーツの活用。会計年度任用職員（特別非常勤講師）の指導による水泳指導や表現活動（ダンス）を実施できた。 ○ 栄養教諭と連携しながら食育指導について継続的に取り組んできた。朝食調べ等を活用し、食べ方や偏食について指導を続け、少しずつ改善が見られるようになった。 ○ 「自分で作るお弁当の日」を実施した結果、家族と一緒に意欲をもって楽しんで作る児童が多くなってきた。 ○ 体カテスト結果を分析し、教科体育の指導に生かすことができた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新体カテストの結果をもとに課題を分析し、体力向上推進計画を基にした教育課程の策定と重点的な指導に努める。 ○ 教科体育の充実を核として継続的に体力・運動能力の向上に努める。 ○ 栄養教諭との連携を図った食育の授業実践を進める。 ○ 肥満傾向をもつ児童や偏食が見られる児童について、学校における食育及び給食指導をはじめ、家庭との連携を図りながら継続的に指導する。 ○ 日課表に位置付けたマラソンタイム（冬期間はなわとび）を実践することで、体を動かす機会を増やし体力や運動能力を高める。また、体力向上推進計画を全職員で共通理解し課題改善に向け共通実践する。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	4 特別支援教育の充実	
取組の状況	<p>(1) 教育支援委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援学級の在籍児童及び次年度特別支援学級入級希望者の情報提供 ○ 各児童の情報及び専門委員による観察結果をもとにした就学に係る審議 <ul style="list-style-type: none"> ・在籍児童（自閉・情緒障がい学級）… 2学年 男児1名 （知的障がい学級）… 4学年 男児1名 5学年 男児1名 ○ 特別支援教育委員会の定期的な開催と特別な支援を要する児童の支援状況についての共通理解 <ul style="list-style-type: none"> ・会津教育事務所指導主事を招いて「切れ目のない支援体制整備事業研修支援」の実施 <p>(2) 特別支援学級の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度特別支援学級設置にあたって、学習環境の整備状況や在籍者の状況、日常の指導の概況を記述 ○ 在籍児童3名全員へのICTタブレットの配付と各教室への大型モニターの設置 ○ 無線LAN・Wi-Fi環境の整備 ○ 児童への日々の指導支援 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級担任と学校支援員の協力による指導 ・教科別での交流学級との学習・生活の交流 ○ 外部機関や保護者との連携・協議 <ul style="list-style-type: none"> ・保育所、町教育支援委員会、医療機関との連携 ・保護者との懇談と共通理解 ・実態に応じた教育課程の編成 	
	成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校支援員や担任外教員が通常学級における特別な支援を要する児童の指導支援に当たることにより、児童一人一人のニーズに応じたきめ細かな指導支援や担任のサポートを行うことができた。 ○ 担任と管理職が協力して支援を要する児童やその保護者に対し、組織的に対応することができた。 ○ 校内特別支援・就学指導委員会を定期的開催することで情報を共有し組織的に対応することができた。また、会津教育事務所の指導主事を講師に招いて研修会を実施したことで教職員の知識と意識の向上を図ることができた。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個別の指導計画や支援計画に基づき、計画的な指導・支援を行い記録簿を累積する。 ○ 必要に応じてSSW、SC、町保健師、養護学校、会津教育事務所、医療機関などの関係機関との連携を図り、適切な就学指導に努める。 ○ 担任と支援員との打合せ時間を確保し、組織的な指導支援に当たる。 ○ 通常学級に在籍する特別な支援を要する児童への取り出し指導の時間・方法等を検討し組織的な取組をする。 ○ 保育所との連携を取り、就学前の情報交換を行うことで、切れ目のない一貫した指導の充実を図る。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	5 小・中連携教育の推進	
取組の状況	<p>(1) 小・中学校間連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小中連携授業参観の実施 (町教研研究授業を通して) ○ 小中連携協議会実施 (年1回) ○ ロードフラワー活動による共同作業の実施 (6年生) ○ 中学生による学習支援・読み聞かせボランティアの実施 ○ 6年生の中学校体験学習の実施 (年1回) ○ 町教研EdTech部会主催による「未来の教室」授業実践と参観 <ul style="list-style-type: none"> ・4年生ICTを活用したプログラミングの授業実施 <p>(2) 小・小学校間連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 宿泊学習事前学習会 ○ 合同宿泊学習 ○ 修学旅行事前学習会 <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン朝交流の実施 (年間) ○ 合同修学旅行 ○ オンライン授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・6年道徳 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6年生は年間を通して朝交流を行い、修学旅行前の意識を高めるとともに中学校進学にむけた交流を図ることができた。 ○ 町教研主催の授業交流を通して、ICT活用に関する共通認識を深めることができた。 ○ 会津柳津学園中学校とは合同避難訓練は実施できなかったが、ロードフラワー活動や学習支援・読み聞かせボランティアを通して実際に交流することで児童生徒の協力意識を高めることができた。 ○ 合同宿泊学習・修学旅行を実施することで、中学校進学へ向けた仲間意識を高めることができた。また、ICTを有効に活用することで、コロナ禍であってもオンライン交流を通して児童相互の交流を深めることができた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中連携については、中学校と相談し、合同避難訓練の時期を工夫して教育課程を作成する。適宜連絡を取り合い、校内授業研究会での授業参観、中学生の学習ボランティアと読み聞かせなどを実践できるようにする。 ○ 西山小学校との交流については、中学校への進学に向けてスムーズな学校生活を実施するために、オフラインとオンラインの交流を充実させる。また、保育所との交流・連携を可能な範囲で継続し、小1プロブレムの解消に努める。 ○ 5、6年生が参加する町水泳記録会、町陸上記録会については、慎重に検討しながら実施できるようにしたい。 ○ 小中連携の視点で、校庭等の施設管理・安全管理を協力して行いたい。 ○ 安全な登下校、地区での生活等について、新たに組織された「見守り隊」に協力を依頼し、児童の日々の安全に努める。また、小中PTA合同での地区安全点検、さらに町関係団体を含めた点検等を継続実施していきたい。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業		6 情報教育の充実		
取組の状況	<p>(1) 学校教育用パソコン等ICT整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ICT機器の効果的な活用と授業の充実・改善 ○ デジタル教科書の活用とiPadの導入による学習の効率化 ○ ICT機器の活用を通して、児童一人ひとりの習熟度や学習速度に応じたきめ細やかな指導の充実 ○ iPadを活用した研究授業・互見授業の実施 ○ 関係機関との連携による環境整備の充実 ○ ICT支援員による授業支援と事前準備 <p>(2) 情報モラル教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ SNS上のトラブル防止の実施状況及び課題を記述 			
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT機器を学習に効果的に活用することで、特に高学年では児童相互の学び合いと一人一人の深い学びを実現することができた。 ○ デジタル教科書を利用することにより、学習意欲を高めるとともに効率的効果的な学習指導を進めることができた。 ○ iPadの活用を工夫することで、児童がドリル等を使った個人練習と自己評価を合わせた学習をすることができた。 ○ 始業前の時間を利用してiPadで意図的に児童の意見を交流させることで児童が互いに肯定的な意見を交流して認め合うことで、クラスの一体感と一人一人の自己肯定感に高まりがみられた。 		<p>達成度</p> <p style="font-size: 2em;">A</p>	
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT機器をさらに有効に活用するための日々の授業実践と校内の研究授業・互見授業を行い、どの学年においても、児童の主体的・対話的で、深い学びの実現をめざす。 ○ 西山小学校と連携して、高学年を中心にICTを活用したオンライン交流や合同授業を実施する。 ○ プログラミング教育の全体計画をもとに、各学年での教科・単元での実践記録を累積する。 			

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業		7 英語教育・国際理解教育の充実	
取組の状況	<p>(1) 英語教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全時間、ALTと担任による効果的な授業実践 ○ ICTを活用した自ら評価する英語授業の実践 ○ 「Check Your Step」を利用した定期的な自己評価 <p>(2) 外国青年（英語指導助手）招致事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ALTを導入した外国語・外国語活動の授業充実 ○ 外国の文化、生活に触れる体験活動の実施 ○ 外国語科の実施へ向けた研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 町教研を利用した授業研究 ・ 中学校との連携した取り組みと職員の指導力の向上 ・ 教育課程の編成 		
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ ALTとのTT授業を行ったことにより、発音やイントネーションなど、生の音声英語に触れながら、英語でコミュニケーションを図る楽しさを味わうことができた。 ○ ICT機器を有効に利用し、自分の発音を録音・再生することでより良い発音への意識を高めることができた。 ○ 英語指導助手との触れ合いは、外国の生活様式や学校生活など、他国の文化を理解する良い機会となった。 	達成度	B
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国語と外国語活動の指導内容や方法について、英語指導助手と担任で連絡を密に取り合い、児童への指導効果がさらに上がるようにする。 ○ ICT機器を使った学習を継続するとともに、より効果的な学習方法を考え実践する。 ○ 外国語の学習を通して高まった外国への興味関心をもとに、自ら外国の文化を調べ・まとめたり、逆に日本文化を再認識したりできるような学習を教科横断的に行いたい。 		

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	1 確かな学力の向上	
取組の状況	<p>(1) 「確かな学力向上グランドデザイン」による学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ふくしまの『授業スタンダード』、町『赤べこプラン』を踏まえた「学力向上グランドデザイン」を作成し、共通理解のもと、ICTの活用や国語・算数学級プランを確認しながら取り組んできた。 ○ 「わかる・できる授業づくり」のために、学び合いの楽しさを実感させ、自分の学びを実感できる振り返りができるように、「学び合いを効果的にするためのコーディネート」と「学びを実感できる振り返りのさせ方」について、全職員が工夫しながら取り組んできた。 ○ ふくしまの『家庭教育スタンダード』をもとにした家庭生活チェックシートを活用して毎月振り返ることにより、家庭生活における自己マネジメント力の向上を目指してきた。 <p>(2) 柳津町学力向上推進事業（町教研への委託）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 柳津小で行われた「ふくしま『未来の教室』授業充実事業」によるプログラミング学習の授業公開に参加するとともに、西会津中で行われた『「ふくしま学力調査」の結果分析と活用について』の講演会資料を職員間で共有し、授業改善に努めてきた。 <p>(3) 全国標準学力検査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ NRT検査前にアシストシートを活用し、これまで学習してきた内容の定着を図るとともに、結果をもとに個々の課題・学級の課題をもとに作成した、個人アシストシート・学級アシストシートに取り組み、課題となる内容の定着を図った。 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICTの活用や課題提示の工夫により、「学習に対する意欲」や「学び合うよさの実感」についての意識が高まってきた。ふくしま学調の分析でも、一人一人の学力の向上が見られた。 ○ 柳津小の授業公開に参加することで、プログラミング学習に夢中になって取り組む児童の様子を見て、授業に活かす方法を考えることができた。 ○ NRT学力検査に結果を見ると、全国平均は上回ったものの、国語 (51.5) 算数 (50.5) と目標値である 53 を下回った。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協働的な学びについては、少人数学級の実態から継続して学び合いの充実を目指してきたが、個別最適な学びの実現に向けて手だてを講じていく必要がある。各種学力調査の結果とRSTの分析をもとに、個別の課題を明確にして、支援していきたい。 ○ 町教研においては、令和4年度に西山小において授業公開を行う予定であり、共通実践をもとに授業改善に努めたい。 ○ NRTについては、アンダーアチーバー（1名）の解消と、集団としての数値だけではなく個々のデータを分析し、学力の向上を目指していきたい。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業		2 豊かな心の育成	
取組の状況	<p>(1) 道徳教育、特別活動における指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の授業においては、学び合いの中で道徳的価値について理解を深めることができるよう授業の充実に努めるとともに、特別活動の中で自主性や実践的な態度の育成を目指して指導を行ってきた。 <p>(2) 体験的活動、ボランティア活動の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域に根ざした教育を目指して、地域人材を積極的に活用し体験活動を行ってきた。 ○ ボランティア活動では、健幸クラブの高齢者との交流や児童が自分たちで地域の清掃活動を計画し、実行することができた。 <p>(3) 学校図書 of 整備と読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 図書館司書を活用し、図書の管理、図書室や各学級の読書環境の充実に努めてきた。 ○ 朝の読書活動、家読リレー、読書貯金などによって読書の習慣化に努めた。 ○ 給食が早く済んだ児童は、他の児童を待つ間に小学生新聞を読み、活字に親しむことができるようにした。 <p>(4) いじめ、問題行動の早期発見、早期対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童との教育相談を年2回、アンケート調査を3回実施するとともに、Q-Uテストの活用や家庭訪問や個別面談などから、早期発見、早期対応に努めてきた。 ○ 毎月1回の生徒指導協議会において、学級担任だけでなく全職員から情報を収集し、共通理解・共通実践につなげてきた。 		
	成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳教育、特別活動の充実により、思いやりの心が育っており、協力する姿やよさを認め合う姿がたくさん見られた。 ○ 地域人材の活用によって、自然体験活動やボランティア活動が充実し、児童が地域に支えられているという感謝の気持ちをもつことができた。 ○ 読書活動の推進により、前年より本や活字に親しむ機会が増え、読書冊数が増加した。 ○ 諸問題に対して早期発見・早期対応でいじめ・不登校ゼロを実現できた。 	達成度
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 決まっている場所でのあいさつはできるが、場に応じたあいさつや元気な返事について課題が見られた。共通理解を図り、改善を目指していく。 ○ 地域連携担当職員を中心に、地域コーディネーターをとおして地域人材を活用し、体験活動の充実に努めていきたい。 ○ 読書習慣の育成を目指して、教育課程に設定した読書の時間を工夫・改善していく。 		

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業		3 健やかな身体の育成
取組の状況	<p>(1) 学校保健体育、部活動の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育の授業においては、主運動の前に運動身体づくりプログラムを確実に実施し、基礎体力の向上に努めるとともに、体育行事において自分に合った目標を設定し取り組むことで体力の向上を図った。 ○ 体力向上推進計画をもとに、業間体育（杉っ子タイム）を行い、マラソン、なわとび等をおして運動に親しむ習慣を身につけるとともに、新体力テストで課題が見られた部分の強化に努めてきた。 ○ 特別非常勤講師（水泳）や外部講師（赤ベコトータルスポーツ）による指導で、専門性の高い指導を受けるとともに授業改善に活かし、運動技能の向上を図ってきた。 <p>(2) 食育計画の作成と指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食に関する教育全体計画のもと、食堂で全校給食を実施してきた。食事の基本的なマナーの指導や食事の大切さについて指導してきた。また、「自分で作るお弁当の日」でお互いの弁当を紹介し、認め合うことで食への関心を高めてきた。 ○ 栄養教諭による食育指導を計画し、食育教育の充実を図った。 <p>(3) 全国体力テストの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、全種目を実施した。課題となる50m走については、体育の時間での向上を目指してきた。実施後の結果をもとに、課題の解消を目指して、業間体育での体力向上に努めた。 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度に比べて総合評価が向上しており、運動身体づくりプログラム、業間体育で継続してきた取組の効果が出ている。 ○ 食育教育では給食指導において、偏食傾向のある児童の改善が見られるとともに、継続的な保健指導により改善が見られた肥満傾向児童もいる。 ○ 各種体育行事で目標に向かって努力する児童の姿がたくさん見られ、記録会でも個人（水泳・陸上）や集団（駅伝・なわとび）で記録の向上を達成できた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 肥満傾向児童の割合が全体の16%を占めており、生活習慣や食習慣の改善が図られるように、養護教諭を中心に家庭と連携していきたい。 ○ 新体力テストにおいては、集団としての体力の数値だけでなく、個人の数値を分析し、柔軟性や課題をとらえた指導が必要である。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業		4 特別支援教育の充実	
取組の状況	(1) 教育支援委員会の開催 ○ 校内就学指導・特別支援教育委員会では、特別支援教育コーディネーターを中心に、支援が必要な児童について、保護者との面談や関係機関との連携を図りながら全職員で情報を共有し、共通理解のもと計画的に進めてきた。 ○ 特別支援教育コーディネーターが柳津町の教育支援委員会に参加し、各校の情報をもとに対応の仕方や効果のあった働きかけについて研修を重ねてきた。 (2) 特別支援学級の整備 ○ 令和3年度は、特別支援学級が設置されていない。		
	成果と評価	○ 支援が必要な児童に対して、教育相談や個別面談から寄せられた情報と、医療機関を受診した際の児童個人の特性を共有し、合理的配慮ができるよう対応することができた。 ○ 切れ目のない支援体制整備事業を活用して、特別支援学校教員による相談支援を実施し、児童に合った対応に仕方について助言をいただきながら、支援にあたることができた。 ○ 家庭生活において支援が必要な児童の保護者に、スクールカウンセラーによるカウンセリングを行い、保護者の心理的負荷の軽減や対応の仕方についての助言をもらうことができた。	達成度
次年度への課題	○ 通常学級における支援の必要な児童に対して、教育相談や学習の様子の観察、保護者との面談をとおして、個別の教育支援計画を作成するとともに、個別の指導計画を作成していく。		

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	5 小・中連携教育の推進	
取組の状況	<p>(1) 小・中学校間連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校と連携し、中学1年生とロードフラワー活動を実施し、協力しながら花の苗を植える活動で交流を図った。 ○ 中学校体験入学をオンラインで実施し、中学校の授業の様子を参観するとともに、部活動の紹介などを聞くことで、中学進学への期待を高め、不安の解消を図った。 ○ 中学校の英語担当教諭による外国語の授業の実施により、中学校での授業へのスムーズな接続を図った。 <p>(2) 小・小学校間連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 修学旅行、宿泊学習をとおして、西山小と柳津小の5・6年生を混合した班を編成し、事前学習や当日、事後指導により交流を図った。 ○ 町小学校陸上記録会を実施し、陸上競技をとおした交流を図る。 (町水泳記録会については新型コロナウイルス感染症対策として中止) ○ 1年生～4年生が柳津小での交流学习を行い、一緒に授業に参加することで交流を図る。 ○ Zoomによるオンラインで柳津小と西山小の高学年児童が週1回程度の交流を行ってきた。 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校との交流は数が少ないため、交流の充実を図るために事前連絡を密にとつて、交流を深めることができるような方法を工夫して実施することができた。 ○ コロナ禍のため当初予定していた実施計画とは異なる点が多かったが、交流が途切れることのないよう各校で工夫して計画できた。ICTを活用することで交流を継続できるので、三密を避けながらのオンラインによる交流も効果的だと実感した。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中連携では、より充実した交流にするための工夫について、町教研連携部会担当職員を中心に、計画的に進めていく必要がある。 ○ 小小連携については、西山小に柳津小児童が来校して交流する計画を立て、互いの学校を行き来することで、両校の交流と地域理解を深めていきたい。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	6 情報教育の充実	
取組の状況	<p>(1) 学校教育用パソコン等ICT整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童と授業者全員がタブレット端末を使用することができ、全ての教科で学習支援システムを活用して学習を進めてきた。児童の考えについてまとめたものをモニターに表示して、学び合いに活用してきた。 ○ 指導用デジタル教科書を使って教科書の音読、本時の振り返り、資料の提示などに使用することで、確かな学力の定着を図ってきた。 ○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業時には、オンラインによる健康観察と学習支援を行い、学びを止めないための取り組みを行った。 ○ ICT支援員には、必要に応じてICT機器の使用時のサポートやデータ処理、ICTを活用した支援体制づくりを進めてきた。 <p>(2) 情報モラル教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ SNS上のトラブルを防止するため、フリー参観デーの際に「親子スマホ安全教室」を実施し、ネットトラブルについて知る機会を設定した。 	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業者が学習場面に合わせて、タブレットや学習支援システムを有効に活用することができた。また、児童のスキルも向上し、主体的に活用しようとする態度が育っている。 ○ タブレットを活用し考えを可視化して共有できるので、発表や比較検討に役立てることができた。 ○ 臨時休業時のオンライン学習では、計画的に学習を進めることができ、家庭で取り組んだものをデータで提出させることができ、有効活用できた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ タブレットを活用した学び合いの充実は図られているが、個別最適な学びの充実にも目を向け、児童一人一人の学習における課題を把握して、解決につなげる工夫が必要である。 ○ 授業において、タブレットを活用して学習する内容と、ノートに書いて学習する内容を精査しながら授業を進めていく。 ○ 端末は学習用の端末であることを確認し、家庭でのメディアコントロールや情報モラル教育にもつなげていきたい。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基 本 事 業		7 英語教育・国際理解教育の充実	
取組の状況	<p>(1) 英語教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3・4年生の外国語活動は、複式を解消し単式による学習を行うことで、外国語を聞いたり話したりする活動中心の学習内容を実施してきた。 ○ 5・6年生の外国語科も複式を解消し単式による学習を行ってきた。外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験させるとともに、アルファベットの書き方や単語の発音を理解し、基本的な会話を身につけることができるように年間計画を立てて実施してきた。 <p>(2) 外国青年（英語指導助手）招致事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 英語指導助手は全学年の外国語・外国語活動の授業に参加し、児童のコミュニケーションの能力を高めるための発音や会話の仕方について、支援やアドバイスを行う。 		
	成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語指導助手を授業で活用することにより、本時の目標に迫るために発音の確認をすることや、会話の内容について支援することができ、円滑に授業を進めることができた。 ○ 他国の文化に触れることができ、違った価値観や文化に気づくなど、国際理解を深めることができた。 	達成度
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校英語科の学習に支障なくつなげるため、小学校において身につけるべき単語の発音や基本的な会話の流れ、アルファベットの書き方など、CAN-DOリストをもとに定着を図っていく。 		

基本事業		1 確かな学力の向上																										
取組の状況	(1) 「確かな学力向上グランドデザイン」による学習指導 <ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり ○ 家庭学習の充実 (2) 柳津町学力向上推進事業 (町教研への委託) <ul style="list-style-type: none"> ○ 小中互見授業や交流授業による学力向上に向けた研修 ○ 9年間を見通した系統性・継続性のある指導の実践 (3) 全国標準学力検査の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国標準学力検査の結果分析と補充指導 																											
成果と評価	(1) 「確かな学力向上グランドデザイン」による学習指導 <ul style="list-style-type: none"> ○ 全教科においてデジタル教科書を使用し、本文や資料を拡大表示して、教科書のどこを学習しているかを可視化するなどの工夫を図ったことで、生徒一人一人の理解を助け、主体的な学びにつなげることができた。 ○ スクールタクトを活用した授業では、生徒一人一人が自分の考えを表現し、それをもとに協働的な学習を行ったり、自分の考えを広げたりすることができ、深い学びにつなげることができた。 ○ 定期テスト前の家庭学習計画の実施や教科担当者による自主学習ノートの確認、年5回の学力コンテストの実施などを行うことで、学習意欲や家庭学習の充実を図ることができた。 (2) 柳津町学力向上推進事業の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ○ 互見授業や交流授業により、児童生徒の実態把握や中学校へスムーズに進学するための学校での取り組みについて確認することができた。 ○ 実態に即した9年間の系統性・持続性のある指導に向けて、赤ベコプランを見直すことができた。 (3) 全国標準学力検査の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科の結果分析による補充指導と年度末・始休業の課題について精選を図り、次年度につながるような課題設定を行うことができた。 			達成度	B																							
	・全国標準学力 (偏差値平均) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>1 年</th> <th>2 年</th> <th>3 年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>49.8</td> <td>48.8</td> <td>47.6</td> </tr> <tr> <td>社会</td> <td>49.4</td> <td>49.2</td> <td>46.6</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>45.9</td> <td>46.3</td> <td>46.0</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td>49.5</td> <td>49.0</td> <td>43.6</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>48.4</td> <td>45.8</td> <td>45.5</td> </tr> </tbody> </table>					1 年	2 年	3 年	国語	49.8	48.8	47.6	社会	49.4	49.2	46.6	数学	45.9	46.3	46.0	理科	49.5	49.0	43.6	英語	48.4	45.8	45.5
	1 年	2 年	3 年																									
国語	49.8	48.8	47.6																									
社会	49.4	49.2	46.6																									
数学	45.9	46.3	46.0																									
理科	49.5	49.0	43.6																									
英語	48.4	45.8	45.5																									
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が解決したくなるような学習課題の設定や生徒の問いや考えをつなぐ教師のコーディネート力、指導力の向上などが必要である。 ○ 授業や家庭学習における ICT の効果的な活用について、引き続き研修を行っていく必要がある。 ○ 授業参観や保護者会などを通じて、生徒達の実態、課題について家庭と共通理解を図り、家庭学習の充実に向けた連携をさらに図る必要がある。 ○ 各検査に向けての事前指導を強化すること、また、検査結果からの課題について全教職員の共通理解のもと、解決に向けて授業をはじめ、教育活動全体で進めていくことが必要である。 																											

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	2 豊かな心の育成	
取組の状況	<p>(1) 道徳教育、特別活動における指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳教育推進教師を中心とした道徳教育の推進 ○ 全校道徳の実施など指導方法の工夫 ○ 生徒会活動の充実 <p>(2) 体験的活動、ボランティア活動の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 修学旅行や校外学習の実施 ○ 地域ボランティア活動や小中連携によるボランティア活動の実施 <p>(3) 学校図書 of 整備と読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の読書の実施 (年間を通して) ○ 図書室の環境整備の充実 ○ 生徒会図書委員会による読書活動推進に向けた取組 <p>(4) いじめ、問題行動の早期発見、早期対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒指導委員会を中心とした組織的な対応 ○ スクールカウンセラーや関係機関との連携 	
成果と評価	<p>(1) 道徳教育・特別活動における指導</p> <p>道徳の授業では、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える授業の充実に努めた。また、全校道徳やスクールカウンセラーによる授業を行い、人間としての生き方について考えを深めることができた。</p> <p>(2) 体験的活動・ボランティア活動の重視</p> <p>地域貢献活動として行った全校生徒による除草や清掃のボランティア活動は生徒の自主性を育むことができた。また、小中連携による学習、読み聞かせボランティア活動では、生徒のコミュニケーション能力の向上にもつながった。</p> <p>(3) 学校図書の整備と読書活動の推進</p> <p>図書館司書と図書委員による連携をはかりながら、新館図書の紹介や読書活動の啓蒙を行うことができた。</p> <p>(4) いじめ、問題行動等の早期発見・早期対応</p> <p>毎週の生徒指導委員会や特別支援委員会を通して情報交換に努め、迅速かつ組織的対応を行った。スクールカウンセラーによる個別面談や助言をもとに、担任と連携を図りながら対処することができた。</p>	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の授業を中心に各行事や体験活動を通して、心の教育を推進していく。 ○ 体験活動については単なる体験にとどまることなく、自主的・主体的な取り組みによって自己肯定感の高まりにつながるような活動にする。 ○ 図書館司書との連携や図書委員会の活動などにより、読書活動の充実に図り教育活動全体を通して、読解力向上に向けた取組を行っていく必要がある。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業		3 健やかな身体の育成																																				
取組の状況	(1) 学校保健体育、部活動の指導 <ul style="list-style-type: none"> ○ 個別トレーニングメニューの作成と活用 ○ 保健体育の授業や部活動への積極的に参加と運動に対する意欲や技能の向上 ○ 健康や安全への関心の向上と自己管理 (2) 食育計画の作成と指導 <ul style="list-style-type: none"> ○ 「お弁当づくり」の実践を通しての食理解の推進 ○ 「朝食について見直そう週間」運動の推進 ○ ふくしまっ子健康・体力「自分手帳」を活用しての食育・健康指導 (3) 全国体力テストの実施 <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度本校の体力・運動能力の状況及び令和2年度の目標値 																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男子</th> <th>目標値</th> <th>県</th> <th>全国</th> <th>女子</th> <th>目標値</th> <th>県</th> <th>全国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>29.50</td> <td>(35.00)</td> <td>33.13</td> <td>35.54</td> <td>40.86</td> <td>(40.00)</td> <td>44.68</td> <td>47.42</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>37.83</td> <td>(38.00)</td> <td>42.41</td> <td>45.07</td> <td>53.09</td> <td>(48.00)</td> <td>50.29</td> <td>53.45</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>49.53</td> <td>(45.00)</td> <td>48.38</td> <td>51.32</td> <td>44.27</td> <td>(52.00)</td> <td>51.70</td> <td>55.83</td> </tr> </tbody> </table>				男子	目標値	県	全国	女子	目標値	県	全国	1年生	29.50	(35.00)	33.13	35.54	40.86	(40.00)	44.68	47.42	2年生	37.83	(38.00)	42.41	45.07	53.09	(48.00)	50.29	53.45	3年生	49.53	(45.00)	48.38	51.32	44.27	(52.00)	51.70
	男子	目標値	県	全国	女子	目標値	県	全国																														
1年生	29.50	(35.00)	33.13	35.54	40.86	(40.00)	44.68	47.42																														
2年生	37.83	(38.00)	42.41	45.07	53.09	(48.00)	50.29	53.45																														
3年生	49.53	(45.00)	48.38	51.32	44.27	(52.00)	51.70	55.83																														
成果と評価	(1) 学校保健体育・部活動の充実 コース別による朝の全校ランニングや夏季休業中の1, 2年生における体力作り、駅伝練習、常設部の練習などにより総合的な体力向上を図ることができた。			達成度																																		
	(2) 食育計画の作成と指導 自己の生活の振り返りによる課題の明確化と生徒、保護者へ必要な情報を提供することができた。また、朝食等のアンケートにより、生徒の実態を把握し、適切な指導を行うことができた。																																					
次年度への課題	(3) 全国体力テストの実施 前年度と比較して、A 評定の生徒は、ほぼ横ばいであった。また、体力合計点の全国平均と比較した結果、全ての学年で下回った。			B																																		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 肥満傾向の生徒が各学年におり、今後も養護教諭、保護者と連携して改善に努めていく必要がある。 ○ 各個人の伸び率を重視し、保健体育の授業や運動部活動における十分な運動量の確保、また、授業と校内外における体育的活動との積極的な連携を図っていきたい。 ○ スポーツ少年団指導者との連携とトレーニング内容の確認をしていきたい。 																																					

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	4 特別支援教育の充実	
取組の状況	<p>(1) 教育支援委員会の開催</p> <p>校内支援委員会を年4回開催し、個別支援を必要とする生徒への対応について検討した。今年度は、1年生3名、2年生2名、3年生3名について実態把握と支援策の検討を行った。</p> <p>特に、通常学級在籍の1年男子生徒については、学習面で極めて困難な状況にあり、授業をはじめ、学校生活全般において支援が必要とされたため、切れ目のない支援体制整備事業を活用し、専門家からの助言も得ながら支援にあたった。</p> <p>(2) 特別支援学級の整備</p> <p>学習環境については、通常学級の教室同様の設備を確保し、教育活動を行っている。在籍生徒2名は、担任や学校支援員によるきめ細かな指導により、学習については、本人の学力に応じて学習課題を設定し、概ね解決できている。生活面についても、必要に応じて、社会性や基本的な生活習慣についての指導を行っている。</p>	
成果と評価	<p>(1) 教育支援委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内支援委員会を中心に、支援が必要な生徒について、全職員で共通理解を図ることができ、指導の一貫性を図ることができた。 ○ 教員向けの研修会を開催し、支援が必要な生徒の特性や支援の方法について、教職員の理解を深めることができた。 <p>(2) 特別支援学級の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者との話し合いや関係機関とのケース会議を実施することで、生徒を多方面から支援することができる体制を整えることができた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別な配慮を要する生徒のアセスメントが不十分だったため、中学校に入学してからの保護者への説明や検査に時間を要し、中学1年の段階では措置替えの手続きまで間に合わなかった。今後は、小学校と連携し、必要な支援方法や保護者相談等を早期に実施できる体制を構築していきたい。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基 本 事 業		5 小・中連携教育の推進	
取組の状況	<p>(1) 小・中学校間連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現職教育や町教研授業研究部を中心とする研究授業や授業の参観及び意見交換、研究協議 ○ 柳津小、西山小とのロードフラワー運動の展開 ○ 柳津小との学習、読み聞かせボランティア活動の実施 ○ 柳津小、西山小への各種検定試験の紹介と実施 <p>(2) 小・小学校間連携教育の推進</p>		
成果と評価	<p>(1) 小・中学校間連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通じて、各小学校と交流や連携ができたことは、児童生徒の実態把握ができ、9年間を見通してどのような指導や支援が必要かを考える良い機会となった。 ○ コロナ禍であっても、内容や方法を検討しリモートによる連携事業が実施できた。 ○ 今年度は、数学と英語において交流授業を実施できた。 		<p>達成度</p> <p>B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 移動を必要とする西山小との連携については、内容や方法、実施時期など細かい点についてリモート機器の活用など調整、検討が必要である。西山小が少人数であるからこそ大切にしたい。 ○ 連携を充実させるためには時数の確保が不可欠であり、小・中連携の行事の内容や実施時期、回数などについて吟味し、検討していきたい。 		

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業		6 情報教育の充実	
取組の状況	(1) 学校教育用パソコン等 ICT 整備事業 ○ 各授業での ICT 機器の効果的な活用方法の検討 ○ ICT 支援員による研修や相談の機会の設定 ○ リモート配信による授業の準備と実践 ○ 集会活動や行事等での ICT 機器の積極的な活用 5 教科だけでなく技能教科においても、タブレットを活用し指導にあたっている。 また、スクールタクト (学習ソフト) を活用した授業づくりを積極的に行っている。		
	(2) 情報モラル教育の推進 ○ 全校集会をはじめ、各学年の学活等において、情報モラル教育を行っている。		
成果と評価	(1) 学校教育用パソコン等 ICT 整備事業 ○ ICT 機器の効果的な活用方法や授業時の展開例などが共有され、教職員のスキルアップが図られた。 ○ デジタル教科書、動画コンテンツなどの利用により、生徒の活動時間を確保することができるようになり、学習意欲の向上につながった。 ○ スクールタクトの活用により、自身の考えを伝えたり、表現したりすることへの抵抗感が全体的に少なくなった。 ○ スクールタクトの継続的な使用により、生徒自身が自身の変容に気づき、単元全体を通しての意欲的な取り組みにつながった。 ○ リモート配信による授業や各行事での使用などで、多数実施することができた。		達成度
	(2) 情報モラル教育の推進 ○ 情報教育担当をはじめ、生徒指導担当や各学級担任による、SNS 等の使用に関するルールを確認する機会を設定できたことで、大きなトラブルはなかった。		B
次年度への課題	○ ICT 機器の効果的な活用方法や指導例などについて、今後も校内研修の場の設定とそのため時間の確保に努めていきたい。 ○ 小中連携による ICT 活用の共通実践項目策定や情報交換、出前授業の実践など積極的な交流を図る必要がある。 ○ 発達段階に応じた情報リテラシーに関する学習を、授業以外の場面でも実践していきたい。		

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基 本 事 業		7 英語教育・国際理解教育の充実	
取組の状況	<p>(1) 英語教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 英語による授業の実施 ○ ALT やデジタル教科書の音声資料を活用したネイティブによる英語の聞き取り ○ 年 3 回の英語検定の実施 <p>(2) 外国青年 (英語指導助手) 招致事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業をはじめ、英語弁論大会に向けた指導 ○ ALT の発想を生かした授業の構築 ○ パフォーマンステストやインタビューテストの指導と評価 		
成果と評価	<p>(1) 英語教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業において英語を活用する機会を多く設定することにより、英語を身近に捉える生徒が多くなった。 ○ 英語に興味関心をもち、英語検定に挑戦する生徒が増えた。 <p>(2) 外国青年 (英語指導助手) 招致事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ALT による掲示物作成により、外国の文化を身近に感じることができ環境整備を行うことができた。 	達成度	B
		次年度への課題	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

【学校教育の充実】

基本事業	8 教育環境・条件の整備充実	
取組状況	<p>(1)教材教具整備事業 ・各種教材等更新整備、・学校図書購入(柳小177冊、西小123冊、柳学中140冊)、 ・ICT機器購入(iPad10台、キーボード付ケース211ヶ、デジタルペンシル100本等)</p> <p>(2)就学援助事業 ・準要保護就学援助 3名(柳津小2名、柳学中1名) ・特別支援教育就学援助 4名(柳津小3名、柳学中1名)</p> <p>(3)児童生徒通学費補助事業 ・遠距離通学児童生徒の保護者を対象に、バス定期券購入費補助(柳津小25名、柳学中11名)</p> <p>(4)高等学校等就学支援給付金事業(新規) ・4月1日現在で住所を有し、高等学校等に通学する生徒の保護者を対象に、50千円給付 64件(76名) ※3回限度(1回/年)</p> <p>(5)高校生奨学金貸与事業・・・貸付実績なし</p> <p>(6)教職員福利厚生事業・・・生活習慣病検診、人間ドック受診</p> <p>(7)教員住宅管理事業・・・教職員等へ貸付、管理(上村2世帯、長坂4世帯分)</p> <p>(8)スクールバス運行事業 ・スクールバス運行委託 本庁地区5路線、支所地区3路線 ・スクールバス専用線運行委託 支所地区～柳学中 2路線 ・スクールバス車両の更新 琵琶首線1台(コロナ対策として換気扇等装備)</p> <p>(9)複式指導解消支援教員の配置・・・西山小に教育支援員2名配置</p> <p>(10)学校施設等改修整備事業 ・空調機設置工事(各校1台)、・手洗い水栓自動化事業(柳小・柳学中)、掲示板等製作工事(柳小)、 ・プールのフェンス改修工事(西小)、体育館サッシ改修工事(柳学中)、机・椅子整備事業(柳小)、 ・AI体温測定顔認証端末6台(各校)、 など</p>	
成果と評価	<p>・各事業において適正な予算執行及び契約工期に基づき、完了することができた。 ・新規事業である高等学校等就学支援給付金については、保護者の経済的負担の軽減に成果があったものとする。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、各校で日々の対策に努めるとともに備品、設備面での充実を図った。</p>	<p>達成度</p> <p>A</p>
次年度への課題	<p>・学校施設等長寿命化計画及び建築物定期検査等の結果に基づき、計画的に施設の改修を実施する。特に、長坂の教員住宅は設備面での老朽化が著しく、今後の必要性など検討が必要である。(財源確保が課題)</p> <p>・ICT機器の活用が拡大する中、適正管理に努めるとともに、計画的に更新する。(視力低下が懸念され、保健指導と合わせ対策する)</p>	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生涯学習の推進]	
基本事業	1 興味・関心を抱く学習機会の創出と町民同士の交流促進
取組の状況	<p>(1) シニアサークル「福寿学園」「養寿学園」の開催 ○月1回の開催・受講生：福寿学園19名、養寿学園19名。</p> <p>(2) 成人学級「悠友倶楽部」の開催 ○月1回の開催・会員数55名</p> <p>(3) 料理教室の開催 ○管理栄養士を講師に月1回開催。受講生11名</p> <p>(4) その他の教室 ○地元野菜を使った漢方料理教室 12月20日開催 参加者19名 ○伝統料理教室 12月22日と1月12日開催 参加者24名 ○味噌づくり教室 1月13日と1月21日開催 参加者30名 ○伝統工芸教室 12月15日～17日開催 参加者19名 ○そば打ち体験教室 3月4日、7日開催 受講生延べ10名 ○町民企画講座 一王町婦人会によるフラワーアレンジメント教室 参加者6名</p>
成果と評価	<p>○コロナ禍により実施できる内容に変更して開催した企画が多々あった。参加者数は若干コロナの影響により減少傾向にあったが感染予防に努めながら事業実施できた</p> <p>○可能な範囲で各種補助金を得ながら、多様な学習機会を提供できたと考える。</p>
達成度	B
次年度への課題	多様化するニーズを把握し、これまでの事業内容を再確認して事業の見直しと立案につなげる。

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生涯学習の推進]

基本事業	2 社会教育施設の設備等の充実	
取組の状況	<p>(1) 活性化施設「ふれあい館」管理運営事業</p> <p>○地域住民の活動の拠点として、利用しやすい施設づくりに取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日は午前8時30分～午後9時まで開館 ・土、日、祝日は午前8時30分～午後5時 <p>講座、文化団体、学校・PTA、体育関係、役場の会議、趣味のサークル、トータルスポーツ、一般会議・研修等への貸出。</p> <p>(2) 図書館整備事業</p> <p>○町広報誌による新刊図書の紹介や図書室のスペースを利用して、わかりやすい図書の紹介をして、関心を集めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規購入図書210冊 ・総数13,444冊 <p>(3) 地区集会所施設の整備補助事業</p> <p>○町内7地区集会所の改修、修繕等の助成事業を実施し、地域コミュニティの拠点づくりと環境整備等に支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総事業費6,096,442円 補助金総額(80%)4,785,000円 	
成果と評価	<p>○各種教室やクラブ活動、サークル活動に有効に活用していただけるよう利用促進を図っている。放課後の児童生徒の利用に際しては公共の場でのマナーを指導しつつ放課後児童の場として提供している。</p> <p>○コロナ予算も追加となりより多くの新刊図書を購入することが出来た。また西山公民館の図書の充実に努め、定期的な入替えを行った。</p> <p>○各地区集会所の整備はコミュニティづくりに大きな役割を果たしている。</p>	<p>達成度</p> <p style="font-size: 2em;">A</p>
次年度への課題	<p>西山公民館は、令和2年度に西山支所・診療所・保育施設を機能を有した複合施設として新設され、今後大いに活用し、地域の方の学びと交流できる施設とするための事業展開を進める必要がある</p>	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生涯スポーツとレクリエーションの推進]

基本事業	1 楽しさを感じるスポーツ事業の提供	
取組の状況	<p>(1) 各種町民スポーツ大会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯谷山・博士山開き ・町民ゴルフ大会 ・霊まつり少年ソフトボール大会 ・町民ソフトボール大会 ・町民運動会 ・町民バレーボール大会 ・西山地区町民赤べこボール大会 ・赤べこボール教室 <p>(2) 県総体県民スポーツ大会への参加 コロナ禍により中止</p> <p>(3) ふくしま駅伝競走大会への参加 第33回市町村対抗福島県縦断駅伝大会に出場し健闘を見せた (9区間全長50.2km) 例年より短縮 総合成績46位、町の部成績24位 6時間21分22秒</p> <p>(4) 市町村対抗軟式野球大会・ソフトボール大会への参加 野球:初戦 新地町に勝利、2回戦 福島市に敗退 ソフトボール:1回戦 平田町に勝利、2回戦 いわき市に敗退</p> <p>(5) 町体育協会運営事業 12の加盟団体で構成し、スポーツを通じて町民の体力向上のため、各種競技団体で工夫し実施している。</p> <p>(6) スポーツ推進委員会の開催と活動 月1回の定例会の開催と生涯スポーツの指導から立案と反省、両沼並びに県の研修会への参加、各種スポーツ教室の指導(委員数13名)</p>	
成果と評価	<p>○ふくしま駅伝は、ふるさと選手が参加できない状況の中で、中学生が主体となって参加することができた。</p>	達成度
次年度への課題	<p>ふくしま駅伝は、ふるさと選手の参加が認められなければ町単独の出場は難しい。年々参加してくれる中学生が減少しており、選手の確保も年々難しい状況である。また、中でも女子選手としての参加が著しく少ない状況となっている。</p>	B

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生涯スポーツとレクリエーションの推進]

基本事業	2 スポーツ施設及び設備の整備充実	
取組の状況	<p>(1) 運動公園施設整備事業</p> <p>○「NPO法人赤べこトータルスポーツ」に管理委託して3年が経過し、民間による施設の有効活用が順調に図られている。</p> <p>○体育館は昭和54年、武道館は昭和55年に建設、今年度で43・42年目を迎えた年間利用者数7,363人(町民6,612人、町外751人) 内訳：体育館6,475人(町民5,922人、町外553人) 武道館3,538人(町民690人、町外198人)</p> <p>○プールは昭和56年に建設、管理棟の外壁塗装とろ過機交換工事を実施 年間利用者数2,272人(町民2,268人、町外4人)</p> <p>○テニスコートは昭和59年に建設、LED照明化に向けて計画的に予算措置必要である 年間利用者数3,538人(町民2,858人、町外680人)</p> <p>○グラウンドは野球側ナイター照明4箇所の交換実施。照明灯は製造中止の見込でありLED化に向けて計画的に予算措置が必要がある。 年間利用者数3,373人(町民2,194人、1,179人)</p>	
	成果と評価	<p>○B&G関係施設は各種大会や教室、スポ少、部活動、スポーツ合宿等利用が多く、地域住民の健康と青少年の健全育成の場として高く評価できる。また、震災後は町内宿泊施設利用者に対する施設無料措置を継続し、夏場にスポーツ合宿招致をはじめ、町内への誘客促進に寄与している。</p> <p>○運動公園施設は近隣市町村の利用も多く、昭和54年建設から43年が経過し、老朽化が進んでおり施設の改修や長寿命化に向けて計画的に実施することが必要。</p>
次年度への課題	<p>○施設の修繕箇所が多くなっていることから、必要に応じた対応として修繕計画等を作成する必要がある。</p> <p>○民間スポーツ団体が施設に席を置くことにより、町スポーツ振興の拠点として官民連携し大いに活用を図る。</p>	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生涯スポーツとレクリエーションの推進]

基本事業	3 指導者の確保とスポーツ団体への支援	
取組の状況	<p>(1) 町体育協会及びスポーツ推進委員会の活動支援</p> <p>○体育協会 町民の体力向上を図り、スポーツ人口の底辺拡大を目指し、町民の健康づくりに寄与する。各事業の主催やその他事業への協力を実施。</p> <p>12団体活動</p> <p>○スポーツ推進委員会 必要に応じて定例会を開催し、スポーツ事業の計画・精査・各種スポーツ事業の運営支援。 委員13名（男性10名、女性3名）</p> <p>(2) 赤べこトータルスポーツの活動支援</p> <p>クラブマネージャーが活動計画や運営に携わっている。</p> <p>活動場所として、運動公園施設、ふれあい館を無償で提供している。</p> <p>町事業の委託やトータルスポーツ独自の活動を実施している。また、近隣町村への事業にも活動範囲を広げている。</p>	
成果と評価	<p>○地域スポーツを推進するための担い手不足や組織の活性化が必要である。</p> <p>○住民の体力増進や青少年の健全育成など貢献度は大きい。</p>	<p>達成度</p> <p>C</p>
次年度への題	<p>○町で一定の支援をするものの、それぞれが自立できるよう助言、指導したい。</p> <p>○スポーツの楽しさや技術向上を図るうえで必要な指導者を育成、確保が必要</p>	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興]

基本事業		1 文化財の適切な保存・管理		
取組の状況	<p>(1) 町指定文化財管理事業 ○国・県・町指定文化財18件(国2件、県2件、町14件)</p> <p>(2) 縄文館活用事業 ○石生前遺跡出土品の整理と民具などの展示を実施</p> <p>(3) 町誌編纂事業 ○編纂後42年経過している現町誌をデータ化し保存活用する。 北日本印刷(株)に委託し、データ化の際に検索機能を加え、今後の編纂に備えるとともにHPに掲載</p> <p>(4) 軽井沢銀山煙突保存事業 ○保存のために国有形文化財への登録を申請する方向で文化庁の現地調査を実施</p> <p>(5) 文化財火災防御訓練の実施 ○奥之院弁天堂、圓藏寺周辺での防御訓練 柳津町消防団・圓藏寺自衛消防隊合同防災訓練と同時開催</p>			
	成果と評価	○文化財保護審議会においては、長年の課題であった銀山抗煙突について協議し、関係団体と調整しながら民間と連携して保存活用に向けて動き出した。	達成度	
○町誌のデータ化は、当初保存のためだけの作業を予定していたが、データの検索機能を付帯することができることとなり、HP上で公開可能となった。		B		
○軽井沢銀山跡煙突について、文化庁の現地調査により指導及び助言を受けることができた。				
次年度への課題	<p>○縄文土器の再整理を実施し、縄文館の利活用を図る必要がある。</p> <p>○軽井沢銀山跡煙突の保存に向けては、これから写真や一次資料を探索する。</p> <p>○町誌の編纂については、専門性の高い作業であることから有識者の参画が必須となるため人材の確保が課題</p>			

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興]

基本事業	2 有識者、関係機関との連携	
取組の状況	<p>(1) 柳津町文化財保護審議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財保護審議会の開催 (年2回) 現地研修 12月13日～14日 研修地 栃木県足利市 (足利学校、鏝阿寺他) <p>(2) 有識者や関係機関との協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○町誌編纂準備会の開催 <p>2月14日に開催し、町誌編纂に向けた課題整理と一次資料収集等について</p>	
成果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ○まちづくりへの活用を積極的に進め多くの方が歴史や伝統文化等に触れられるよう専門性を持った人材を育成する必要がある。 ○昭和44年に編纂され、これまで編纂が行われておらず数年前から追加編纂を求める声が上がったことから準備会を開催できた。 	<p>達成度</p> <p style="text-align: center;">B</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ○大学や博物館等との連携による調査研究を深めるとともに、文化財保護審議会や有識者の指導を受けながら新たな地域資源(食文化、伝統行事等)の保存に努める。 ○目指すべき町史のあり方、論点の整理、利活用の方向性、スケジュールの策定などを検討し、今後の事業着手に向けた課題を整理する。 	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

⑤ [地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興]

基本事業	3 斎藤清の魅力発信し地域に開かれた美術館	
取組の状況	<p>(1) 斎藤清展事業 ○企画展の実施（年4回開催） 春季特別企画展「斎藤清とハニワ！」2021.4.24～6.6「斎藤清 異形のイメージ」7.3～9.5、秋季特別企画展「斎藤清 VS ピカソ」9.18～11.28、「コレクターズ episode 1」12.11～4.10 ※新型コロナウイルス感染拡大のため4.27から5.23まで休館 ※改修工事のため2020.12.1から2021.3.31まで休館</p> <p>(2) 県外斎藤清展推進事業 ○オリジナルグッズの館外販売（東京都美術館、似鳥美術館他） ○渋谷ヒカリエ（東京都渋谷区）における「斎藤清」展は新型コロナウイルス感染拡大のため中止</p> <p>(3) 滞在的アートP事業、地域アートP事業 ○地域住民が気軽に参加できるトークイベント・講演会・ワークショップ（「館長講座」7月10日、9月18日、11月27日、「学芸員講座」8月21日、10月16日） ○ミュージアムカフェ（5月の土日祝日 計13日間、秋季土日祝日 計19日間） ○筑波大学、武蔵野美術大学及び日本大学との連携イベント（「やないづまちなかアートプロジェクト」8.19～28、「一家に一枚プロジェクト」10月26日～11月28日、「やないづの家宝展」12月11日～4月10日）</p> <p>(4) 作品等収集 ○代表作品、デッサン、墨画など未収蔵作品等の情報収集。</p> <p>(5) 施設整備 ○通路床カーペット張替及び床暖房にかかる真空温水ヒーター等の修繕を実施。</p>	
成果と評価	<p>(1) 入館者数 11,252 人（R2 年度 9,992 人、増減率 12.6%増） 特別企画展を春と秋の2回実施したが、春季は新型コロナウイルスの影響により県の非常事態宣言が出されたため入館者数が少なかったが、感染者数が減少傾向となった秋季は盛り返し 1,260 人の増加となった。</p> <p>(2) 収入額 23,397 千円（R2 年度 21,226 千円、増減率 10.2%増） 入館者数の増加にともない、令和2年度よりも入館料（1,669 千円）及びグッズ販売収入（502 千円）が共に増加した。</p> <p>(3) 渋谷ヒカリエ等での展示やグッズ販売を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響から中止した。</p> <p>(4) 展示以外に企画展とあわせてカフェやコンサートを行った。</p> <p>(5) 美術館の多様な価値を高めるため、筑波大学や武蔵野美術大学との連携事業を行うとともに、地域に根ざし、開かれた美術館を目指すため地域おこし協力隊による各事業を行った。</p>	<p>達成度</p> <p>B</p>

	(6) 専門的な知見を有した美術館長の適切な指導助言により、上記事業について取り組みが焦点化され成果をあげることができた。
次年度への課題	<p>(1) 限られた財源で運営していくための美術館方針の決定が求められる。</p> <p>(2) 集客のための斎藤清ブランドの再構築が必要。</p> <p>○公式 HP の内容充実と公式 SNS である facebook、Instagram、YouTube での情報発信の強化・拡充</p> <p>○斎藤清展パッケージウェブサイトを活用した海外も含めた他館での展覧会の開催に向けたPR</p> <p>(3) 斎藤清アーカイブの継続的实施</p> <p>○作品の収蔵・研究・展示という美術館の基本サイクルの徹底</p> <p>○斎藤清を知る人からの情報収集</p> <p>(4) 町民に美術をより身近なものとして捉えてもらうために、町内小中学校と連携し小さな頃から美術と触れ合う機会を創出するとともに、町民が気軽に訪れることができる環境づくりに取り組んでいく必要がある。</p>

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

IV 点検・評価に関する有識者の意見

□有識者名簿

【敬称略】

No.	役職名	氏名
1	柳津町文化協会会長	佐藤 長八
2	柳津町体育協会会長	二瓶 伸博
3	柳津町人権擁護委員代表	鈴木 晴美
4	柳津町主任児童委員	荒木 南枝
5	柳津町主任児童委員	菊地 由枝
6	柳津小学校PTA会長	目黒 清志
7	西山小学校PTA会長	小林 浩
8	会津柳津学園中学校PTA会長	二瓶 博樹

IV 点検・評価に関する有識者の意見

1 点検・評価に関する有識者名簿

学識経験者の知見の活用については、以下の方々を「点検・評価に関する有識者」に選任し、ご意見をいただきました。(敬称略)

- ・佐藤 長八 (柳津町文化協会会長)
- ・二瓶 伸博 (柳津町体育協会会長)
- ・鈴木 晴美 (柳津町人権擁護委員代表)
- ・荒木 南枝 (柳津町主任児童委員)
- ・菊地 由枝 (柳津町主任児童委員)
- ・目黒 清志 (柳津小学校PTA会長)
- ・小林 浩 (西山小学校PTA会長)
- ・二瓶 博樹 (会津柳津学園中学校PTA会長)

2 点検・評価に関する有識者のご意見 (順不同)

◇教育委員会の活動状況について

- ・ コロナ禍が続く中で、教育委員会としての活動も非常に難しい点多々あるとは思いますが、話し合いの場をしっかりと設けて活動できてとても良いと思う。また、こういった形で有識者の意見を聞く事も大変素晴らしい事だと感じる。
- ・ 新型コロナウイルスが大流行している中においても計画どおりに定例会が開催されている。また、学校行事等の活動については、オンライン開催や書面对応等による工夫しながら、また、慎重な対応ができています。
- ・ コロナウイルス感染症のため、活動も制限される中、状況に応じた工夫等が見られました。今後も省略できるものは省き、充実した活動内容となることを期待します。
- ・ 一般委員の活性化と若い人材の登用を望みます。
- ・ 一期の中で職務代理は2年とし、代理職を委員全員が体験していただきたい。
- ・ 第10回定例会でのB&G艇庫活用検討について、どの様に検討されたのか、物置や倉庫にならない様をお願いしたい。
- ・ 令和3年度は、ほんとにコロナに泣いた年だったと思います。してあげたいのに、してあげられないもどかしさとか、やりたい気持ちに伝えられない事もあったかと思えます。それがもう4年度にはたくさん現れているので…いつも御苦労様です。これからも子供たちのために柳津の将来を担う子供たちにご尽力よろしくお願ひします。

- ・ 学校教育、社会教育、スポーツ教育とも充実した活動になっていると感じます。社会教育は子供から高齢者まで幅が広く、目の届かないところが起こりがちです。これからは健康面にも目を向けた活動も重要化して頂きたいと願っています。柳津町には大きな事件となるようないじめを耳にしたことはありません。今後も学校・保護者・地域と連携して見守って頂くことを望みます。

◇教育委員会重点施策の点検・評価について

- ・ 総合的にA、Bの項目が多く、良かったのではないかと感じる。スポーツ団体への支援がやや不十分と言う事で、今後、改善される事に期待いたします。
- ・ 学校教育の充実については、「ICT環境の整備」、「教育環境・条件の整備」等、十分に目標が達成できている。
- ・ 生涯学習の推進については、「社会教育施設の設備等の充実」等、充分目標を達成できている。
- ・ 生涯スポーツとレクリエーションの推進については、コロナ禍で十分な活動ができていない中、市町村対抗戦等が開催され出場できたことは良かった。施設維持のための改修も計画的に実施していく必要があると思われる。
- ・ 地域行事の継承、文化財の保存、活用と芸術文化の振興については、「文化財の適切な保存・管理」等、目標を概ね達成できている。
- ・ 1-1、1-6、1-7において、ICT機器の効果的な活用が多く見られたと思いました。ICTの活用により、この地域独自の学び方、活用方法等を開発して、視野を広げて欲しいと思いました。
- ・ 生涯学習の推進（2社会教育施設の設備等の充実）の地区集会所施設の整備補助事業について、大変良い事業です。当然、行っていると思いますが、事業内容の確認、見積書の検算、完成後の確認、地区総会資料の確認（特に事業計画書、予算書及び決算書）、高く見積り、地区負担が0になることのない様に。
- ・ 生涯スポーツとレクリエーションの推進（1楽しさを感じるスポーツ事業の提供）のスポーツ推進委員会の開催と活動について、コロナ禍により町主催のスポーツ行事が（町民ゴルフは？）全て中止になることは理解できますが、何か工夫出来ないのか。スポーツ推進委員の存在が見えません。今後期待します。達成度も疑問です。
- ・ 生涯スポーツとレクリエーションの推進（2スポーツ施設及び設備の整備充実）の運動公園施設整備事業について、各種補助事業等の活用により施設の老朽化による修繕にあたって頂きたい。また、グラウンドの整備状況が良くないと利用者から聞きます。運動公園管理者だけでは難しい状況ですので、利用者や各種団体と話し合いが必要。
- ・ 生涯スポーツとレクリエーションの推進（3指導者の確保とスポーツ団体への支援）のNPO法人赤べこトータルスポーツの活動支援について、今後も町からの助

成により、長く継続することを望みます。また、指導者不足は大きな課題です。退職者や過去に活躍された方、有資格者の皆様など、町民の方々の理解と協力が必要です。

- 学校教育の充実の中で、(1) 学校保健体育、部活動の指導に関して柳津町は福島県でも外部コーチが珍しいと言われていた時代から、中学校部活動の指導、大会等に外部コーチが関わっています。昨今、全国的に部活動の地域移行が進んでいる中、まだ何の動きもありません。今後どのような話合いが進んでいくのか疑問に思います。
- いろんな分野で大人から子供まで関わってくださって、連携が取れているのではないかと思います。地域の人にも協力していただくような考案だったりもこれからは主体の町民いろんな人に町民子供たちに関わってもらって、活気ある柳津町づくりに町全体一丸となっていけたらとても素敵だと思います。まずは自分から、ここからで、私も協力させていただけたらと思います。
- 今、コロナ禍の中での活動は本当に大変なことだと思います。リモート授業は重要な側面を持っていると思います。これからの時代は教科書もデジタル化され、通学のカバンの中はタブレットしかないという時代が来るかもしれません。時代に合った教育と、また、反面無くしてはならないものもあると思います。その両方のバランスを考慮した対応が求められるのではないのでしょうか。西山中学校が統合され、西山地区には西山小学校1校になってしまいました。学校は地域にとって文化の殿堂であると思います。地域性からしてもこれを堅持し、大切にしていって貰いたいです。柳津町に誇りを持って貰う教育には、現地見学が一番かと思います。例えば、軽井沢銀山、発電所（柳津発電所、滝谷川発電所、地熱発電所等）

《資 料》

令和3年度 柳津町教育委員会の点検・評価の概要

柳津町教育委員会は、要綱に基づき、令和3年度の教育委員会に属する事務の管理及び執行状況について、次のとおり点検・評価を行います。

(1) 点検・評価の対象(項目)

「柳津町教育委員会の活動状況」及び「柳津町教育委員会の重点施策」

① 柳津町教育委員会の活動状況

柳津町教育委員会の開催及び審議状況、教育委員の主な活動、教育委員会の情報発信等

② 柳津町教育委員会の重点施策

令和3年度柳津町教育委員会重点施策について、「取組の状況」「成果と評価」「次年度への課題」の視点から、それぞれ点検・評価を実施する。

※「達成度」については、重点施策ごとに、A(十分に達成)、B(ほぼ達成)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階で評定

(2) 学識経験者の知見の活用

柳津町小中学校保護者を含む教育関係者等、教育に関し知見を有する方から、柳津町教育委員会の内部評価について、個々人から意見をいただく。

※令和3年度の点検評価学識経験者

・文化協会長・体育協会長・人権擁護委員代表・主任児童委員代表・
町内各小中学校PTA会長

(3) 点検・評価の経緯

柳津町教育委員会では、次の手順で点検・評価を実施する

① 各学校での内部評価 (3月)

○重点施策「生きる力を育む学校教育の充実」を中心に

② 教育委員会の内部評価 (4月～5月)

○教育委員会の活動状況のまとめと評価(学校教育係)

○事務事業の取組(進捗)状況のまとめと評価(各係)

○事務事業の評価に基づく重点施策の評価(学校教育係)

③ 学識経験者からの意見聴取 (11月)

④ 点検・評価についての審議及び決議 (12月教育委員会)

⑤ 点検・評価報告書を柳津町議会へ提出 (1月議会全員協議会)

⑥ 柳津町ホームページ等で町民への公表 (1月～)

柳津町教育委員会事務管理及び執行状況の点検・評価実施要綱

柳津町教育委員会

(目的)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和36年法律第162号。以下「法」という。）第27条の規定に基づき、柳津町教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 点検・評価の対象は、教育委員会の活動状況及び教育委員会が定める重点施策とする。

(点検及び評価の期間)

第3条 点検・評価は、当該年度の前項に規定する事項について行うものとする。

(資料の整理等)

第4条 点検及び評価に資するため、事務局（法第18条に規定する事務局をいう。以下同じ。）は、第2条に規定する事項について必要な書類を整理する。

(点検及び評価)

第5条 点検及び評価は、前条に規定する資料に基づき、学識経験者の意見を聴取した上で教育委員会において行う。

(点検・評価に関する有識者)

第6条 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「点検・評価に関する有識者」を置く。

2 点検・評価に関する有識者は、小中学校保護者及び教育関係者等、教育に関し知見を有するものの中から教育委員会が選任する。

(議会への報告等)

第7条 教育委員会は、当該年度の点検及び評価を行った後、その結果をまとめた報告書作成し、これを柳津町議会へ提出するとともに公表する。

(庶務)

第8条 点検及び評価の実施に関する庶務は、教育課学校教育係において行う。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、必要事項は別に定める。

附 則

この要綱は、平成21年2月27日から施行する。